

日本型郵便システムが世界をつなぐ

岡村 信悟

総務省情報流通行政局郵政行政部郵便課企画官(国際協力担当)

経歴

平成 7年 4月 郵政省採用
 平成 7年 7月 同 大臣官房国際部国際協力課
 平成 8年 7月 同 大臣官房人事部人事課
 平成 9年 7月 英国留学(エセックス大学大学院)
 平成 10年 6月 郵政省通信政策局政策課情報通信利用振興室企画係長
 平成 11年 7月 同 通信政策局地域通信政策課企画係長
 平成 12年 7月 同 通信政策局政策課制度係長
 平成 13年 4月 箕面市市長公室専任理事
 平成 14年 4月 同 政策統括監 併任 市長公室専任理事
 平成 15年 8月 総務省情報通信政策局地域通信振興課地方情報化推進室課長補佐

Shingo Okamura

平成 17年 5月 同 情報通信政策局地域通信振興課課長補佐
 平成 18年 10月 内閣総理大臣官邸世耕内閣総理大臣補佐官室参事官補佐
 平成 20年 1月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課課長補佐
 平成 21年 7月 同 情報流通行政局郵政行政部企画課統括補佐
 平成 22年 7月 同 大臣官房企画課課長補佐
 平成 24年 8月 (一社)日本ケーブルテレビ連盟審議役
 平成 26年 8月 現職

経歴

平成 12年 4月 郵政省採用
 平成 12年 8月 同 郵務局企画課
 平成 13年 1月 総務省郵政企画管理局郵便企画課
 平成 14年 7月 米国留学(コーネル大学大学院)
 平成 16年 7月 総務省大臣官房企画課係長
 平成 17年 8月 同 総合通信基盤局消費者行政課課長補佐
 平成 19年 7月 財務省大臣官房政策金融課課長補佐
 平成 21年 7月 総務省総合通信基盤局電波部電波政策課周波数調整官
 平成 23年 7月 同 総合通信基盤局電波部電波政策課課長補佐
 平成 24年 7月 同 情報流通行政局情報流通振興課情報セキュリティ対策室課長補佐
 平成 26年 7月 現職

Hiroyo Hiramatsu

「総務省」というフィールドを生かして

平松 寛代

情報流通行政局地域通信振興課課長補佐

安倍総理のヤンゴン郵便局訪問

「ミンガラバー(こんにちは)!日本国総理大臣の安倍晋三です。」
 2014年11月13日夜8時過ぎ、ヤンゴン郵便局に総理の声が響きます。待ちに待った瞬間が訪れました。ミャンマー通信大臣、120名を超える郵便局員、日本郵便社長をはじめとする日本側関係者の視線が一斉に総理に集まります。予定よりも一時間遅れのスタート。総理到着を待ち望んだ人々の期待が蒸し暑いヤンゴンの夜を更に熱いものにします。日本の支援によるミャンマー「郵便再生」の取組の一環で郵便局が日本式に改装され、総理を迎えての記念式典が始まったのです。

郵便分野の海外展開

郵便の海外展開とは何か?昔からどこの国にもある当たり前の仕組み。ICT(情報通信技術)時代に今更何と感ずるかもしれません。でも日本の様に質の高いサービスを受けられる国は少ないのです。しかも民営化後も郵便だけではなくユニバーサルサービスとして貯金・保険も受けられます。日本中にある郵便局は誰にも身近な存在として国民生活を支えているのです。

この優れた郵便システムを各国の事情に合わせ、品質向上のノウハウ、それを支える機器やICT、更に金融やコンビニなど郵便局ネットワークを活用した様々なサービス導入までを視野に入れ、総務省が旗振り役となってオールジャパン体制で展開するのが私達の構想です。ある国の特定の地域・人々ではなく、全国民・全国各地に役立てるのが郵便分野の協力の特長です。

その最初の試みがミャンマーで始まっています。軍政下では郵便に対する国民の信頼が失われ利用者が激減していました。しかし2011年のテイン・セイン政権誕生後、急速に民主化が進み、アジア最後のフロンティアとして注目を浴びる中、新藤前総務大臣とミャツ・ヘイン通信大臣との信頼関係を基礎として協力の覚書が締結され、日本郵便OB職員の指導など、日本の支援による郵便再生の取組を行うことになったのです。

ミャンマー、ベトナム、そして

総理訪問は素晴らしいことですが取組はスタートしたばかり。年明けも早速ミャンマーを訪れました。顔の見える協力関係を目指す私達は手間を惜しまず一ヶ月に一度以上のペースでミャンマーに通います。ミャツ・ヘイン大臣に研修プログラムを説明し好評を得ました。ミャンマー郵便のカム・アウン長官もいつにもまして明るい表情です。

総理訪問が郵便サービス向上に対するミャンマー国民の期待を一層高めているのでしょう。初めてテイン・セイン大統領を表敬訪問。ミャンマーの国づくりに総務省が貢献しつつあることを実感します。

ミャンマーから直接ベトナムのハノイへ。2015年1月15日、西銘総務副大臣が通信省フン副大臣と覚書に署名しました。これにより日本郵便とベトナム郵便の協力関係構築を後押しするとともに、日本企業18社が参加したベトナム郵便に新規サービスの提案会を実施。昨年から仕込んでいたベトナム案件もいよいよ動き始めたのです。今朝(2015年1月16日)、NHKニュースでこのことが詳しく報道されました。心地よい充実感とともに今後の展開を想像し、わくわくしながらホテルでこの文章を綴っているところです。

賢治の思いを

宮沢賢治は農民芸術概論綱要で「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と書きました。詩人の理想論と嘆くことは簡単です。でも21世紀の公共に携わる国家公務員は賢治の言葉をまじめに噛みしめてもいいと思います。

郵便協力の神髄は、それぞれの国に暮らす人々の幸福の基盤を造ることです。企業進出や外交戦略など国益を考えることは無論ですが、何よりもミャンマーやベトナムの国民が、どの地方に住んでいてもお金や物や情報を享受することで世界中の地域とつながり幸福を実感できるよう積極的に貢献する。そのこと自体が我々の生の充実につながるのだと感じます。国境を越えて様々な人々が協働できる公共の磁場を創り出す。公務員として働く我々はいつしか国の枠組みを越え「世界の幸福」を支えるために汗を流せる可能性を目前にしているのかもしれない。そして、それを実現するのは若い皆さんです。

是非、共に働きましょう。



高市総務大臣にはがきを差し出す安倍総理

入省から15年…!!!

皆さん、こんにちは。私は2000年に入省し、実に今年で勤続15年となります。

15年。気づけばこんなに時間が経ったんだ、というのが正直な感想です。入省した時は、自分が十年後、二十年後にどのように働いているかなんて、全く想像もつきませんでしたし、そのような視点であまり物事を見ていなかったようにも思います。

だからこそ、皆さんにお伝えしたいと思っています。

自分のキャリアを考えられる際は、ぜひ、中長期的な観点から、様々な角度(興味や得意分野等)で熟考していただきたい、と。そして、そのような視点から見ていただいた時、私は自信を持って、「総務省」は、長期にわたって社会人として必要な能力を成長させてくれる、素晴らしいキャリア環境だ、とお伝えしたいのです。

人生の糧となる豊かなキャリア経験

15年。振り返ってみても、本当によく働いており、働かされています(笑)。そして、総務省には、社会で通用できるような一人前のキャリア人間に育てていただいていると、心から感じています。

入省から2年は当時話題の郵政民営化、特に、国が独占していた郵便事業に民間事業者を参入させるスキーム作りに関わりました。郵便法の解釈・運用、有識者研究会の回し、新法制定に向けた検討など、限られた時間で膨大な作業をこなす中、文献の読み込みやブライオリティセッティングなど、仕事をこなす基礎を習得しました。

そして米国留学。国際機関(米州開発銀行)でインターンをする機会に恵まれ、自信を持ってきらきらと美しく働く女性陣と触れ合い、深い憧れを抱きつつ、このままではまずいぞ、と言いやうもない焦燥感にうちのめされ、ひたすら勉強した日々。

帰国してからは、省内全体の調整機能である大臣官房に配属。「調整機能」と聞かえはいけれど、実際は色々な部局にお仕事をお願いするのが仕事なので、相手の所掌事務など組織全般の構造を調べ、どうしたら相手を説得できるか理屈付けの考察に明け暮れました。おかげでネゴシエーションスキルが身に着きました。

その後、インターネット上のプライバシー問題に関わった際には、民間事業者と協働し、法律の専門家からのアドバイスも得て政策を立案形成していくマネジメント能力を、財務省に出向した際には、リー

マンショックへの対応として中小企業金融の円滑化を進めるための政策金融手法や財政に関する基礎的知識を、そして電波の再編に関わった際には、携帯電話会社や放送事業者など既存の電波利用者との調整を経て土地収用とのアナロジーを感じ、自分のやっている仕事を起点として他の分野を俯瞰できる「ものの見方」を、それぞれ習得したように感じます。

これらの知識や能力はばらばらのように見えますが、どれも仕事をしていくうえで必要な能力ですし、最近では点と点が繋がっていることを実感しています。

例えば、私は現在、安倍政権が最重要課題の一つとして掲げる「地方創生」に関わっており、一見、上記と全く関係がないように見えるかもしれませんが、仕事のプロセスは、民間事業者との協力による案件形成や異業種への営業的な交渉等であって、これまで培ってきた知識と能力なしでは進められません。

これまでの積み重ねから、15年経った今、私の中で、これからどんな新しい仕事になってもやってみせる、という自信が着実に芽生えているのです。

「総務省」という選択肢

ここまで育てていただいたからこそ、他に選択肢がないわけではないですが、長いキャリアにわたって継続的に自身が成長できるという組織は、他にないと感じています。また、総務省が向き合う情報通信や地方自治は、変化が早い実社会を生身で感じることができるので、職場は常に活性化しています。

このように自信を持って「総務省」は素晴らしい職場とおススメできますので、ぜひ、この選択肢をご検討いただけたらと思います。

皆さんと「総務省」でお会いできることを楽しみにしております!



週末は近所で家族とジョギング